



2000
8/12 ~ 18



雪溪とチングルマ

Japan Auto Route *Mountaineering*



立山 ~ 槍ヶ岳





コイワカガミ



ミヤマトリカブト

日程>>> 8/12 ~ 18

メンバー>>> 大塚賢一 45才
木倉 博 37才

行程>>> 12日の20:30に三ノ宮からの夜行バス(アルペンライナー)で立山の室堂まで

()は今回の行程時間

- 13日>スゴ乗越テン場 (9:00)
- 14日>黒部五郎テン場 (11:20)
- 15日>三俣蓮華テン場 (11:50)
- 16日>南岳テン場 (10:13)
- 17日>新穂高テン場 (8:10)
- 18日>新穂高~姫路 (7:30)

個人装備

軽アイゼン・ゴアレイン上下・ザックカバー・シュラフ・シュラフカバー・シュラフマット・フリース夏用上下・替えアン

槍ヶ岳・・・あれから5年の歳月が流れる、そして今また足を踏み入れている。

40才から山を覚え、スキーを覚え、思い起こせば私の初登山縦走がこの槍・穂高ジャンダルム縦走である、とんでもないプランをたて走破したのだが、あれから幾つもの山を登り幾つもの山を滑ったことであろう。

今回はそれにもまして立山室堂から槍ヶ岳までのAuto Routeを縦走するといふプランをたてそれも走破でき、感慨に浸っている。しかし、あくまでこのルートを山スキーで縦走するというのが本来の目的である。

夏山は道がついているところを歩けば自然に目的地にたどり着くが、雪山では地図、高度計、コンパスを巧みに読みとれなければたどり着けない「最悪の事態」を招く恐れもある。

このJapan Auto Routeを山スキーで走破するのをいつか夢見て・・・

ダー(ゼロポイント上下・靴下・手袋・パンツ・Tシャツ)・ヘッドライト・トレペ・ブキ(箸、スプン)・マグカップ・帽子・タオル・サングラス・水1.5L・行動水500mL・行動食(パン5ヶ入×4袋、飴、チョコ、羊羹etc)・ウイスキー・肴・高度計・1/50000地図・コンパス

共同装備

大塚
・ゴアテント2人用・フライシート・テントマット・ランタン・双眼鏡・カメラ・テーブルレコーダー・ラジオ・エマージェンシーキット・バーナー&ガス3ヶ・コッヘル大小

木倉
・ジフィーズ20食・ラーメン10食・ビデオカメラ

12日 晴/ガス

20:30 三ノ宮発アルペンライナー

初めての交通機関を利用した登山行である。車を運転しないというのは他人任せで非常に楽である。しかし、完全な他人任せなのでちょっとしたハプニングもあった。大阪中継で私の登山靴がなくなる・・・積んだ物がなくなるはずなのに困り果てたものであった、結果は同乗者が親切心に降ろしていた(結局誰だか名乗ってこない)。また、富山インターを降りてからバスがオーバーヒートしてしまい、代替りのバスに乗り変わるという、どうにもこうにも幸先が悪いような予感がしていた。



残雪多い室堂周辺

一の越山荘に向けて登り出すが、大勢の観光客でなかなか前に進めない。特に今年は雪渓が多いのでそんな所を歩き慣れない人達が立ち止まって大混雑である。

しかし、高度を上げるに連れて室堂方面は非常に美しく、スカイブルーの青空にハエマツの緑と白い雪渓、色とりどりの高山植物が目を楽しませてくれている。

13日

7:00 2390m 16度

立山室堂着

しかし、室堂に着くと台風も停滞しているのか、青空が向かえてくれている。室堂に来るのは4回目であるが、いつ来ても観光客が大にぎわいでちょっと場違いな雰囲気である。



浄土山から遙かかなたの薬師岳



鬼岳の巨大雪渓

い限りである。

龍王岳2872mを上り下りし、少しのガスの晴れ間に黒部湖を眼下に見下ろしながら、幅200mほどの雪渓を3つトラバース。鬼岳の東側は急谷になっているのだろうがガスで何も見えない。

・山スキー>>>一の越山荘からトラバース気味でこのあたりまで来る予定だ。高度2670m地点でチェックだ。

9:54 2741m 獅子岳山頂

8:20 2700m

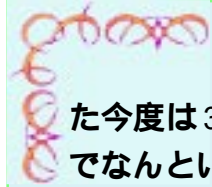
一の越山荘着

小休止を入れずに立山三山の一つである浄土山2831mに登っていく。

9:11 2690m 鬼岳

2750mをトラバース

この辺りで可愛い3人娘に出会う、我々と同じ量くらいで70Lのザックがパンパンに膨れている、五色ヶ原キャンプ場を4時半に出たと言っていた。きゃしゃな身体でどこからあんなパワーが出てくるのか、たのもし



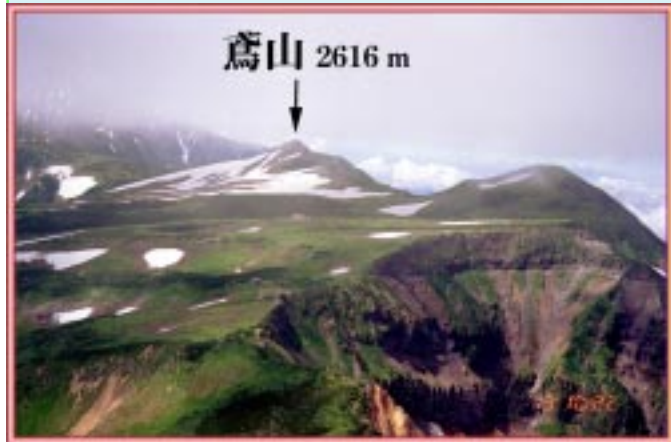
残念ながら山頂は360度のガスで視界悪し。ここでまた今度は3人のオバさんに出会う、たばこは吸うしビールは飲むでなんというタフな人たちか！、五色が原に泊まって黒部湖に降りるそうだ。

下る途中でガスが晴れて美しい五色ヶ原が見えだした。五色というよりも10色でもいいのではないかと！というくらいに小さな花が乱舞していて、その中にヒュッテや山小屋が建っているのである。まるでアルプスのハイジである。

・山スキー>>>この山頂からザラ峠までのとんでもない急斜面には足がすくんでしまうだろう。

10:40 2348 m ザラ峠着

五色ヶ原とは裏腹にこのザラ峠は、歴史とロマンの峠と名を打っているが、どこがなんでザラ峠なのか理解に苦しむところでもある。



獅子岳から五色ヶ原を展望

11:22 2510 m 五色ヶ原山荘着

山荘は素通りで先の鳶山に向かう。

気圧計はよくなる傾向なんだが、残念なことに向にガスがおもうように晴れてくれない。

この大草原の中に豊富な雪渓により清水が流

れ、色とりどりの花、ハイマツの美しい緑とのコントラストが目を楽しませてくれるであろうに、残念で仕方がないが一応ビデオは回して



いる。

立山からここまでが7 kmで、薬師岳までが13 kmと標識がある。

11:53 2616 m 鳶山到着

やはり、視界は芳しくもなく360度がガスの世界である、見えるのは足元ばかり。

13:13 2591 m 越中沢岳頂上

鳶山からは背丈ほどもあるハイマツとシラビソの森の中をアップダウンを繰り返しながらの広い尾根を登っていくルートである。

ここからは今日の停泊地のスゴのキャンプ場が見えているが・・・、「アップダウンが続くよ、近くて遠いスゴの小屋」と標識に書かれてある。

・山スキー>>>鳶山から越中沢岳はどうも雪深くなると迷いやすいところだ。越中沢岳からの下りは雪彦山の下りほど急であるためにアイゼン・ピッケルのお世話か。

14:26 2431 m スゴの頭山頂 大休止

越中沢岳からは、300 mほどの急下降で150 mほどの急登である。このころになるとガスも取れてきだし朝方のスカイブルーの空が戻ってきた。明日の行程の薬師岳も見えだし、その向こうに黒部五郎岳も顔を出し、その遙か向こうには富士山のように美しい笠ヶ岳も顔を覗かせている。今までのアップダウンのガスの中での行動で滅入っていた気持ちがウソのようにスカイブルーの空に吸い込まれていく。

スゴのキャンプ場は、森に囲まれてうっとしい所なのでこの見晴らしの良いところでラーメンタイムとした。



16:33 2295m スゴ
のキャンプ場到着

ツガやシラビソの樹林帯をスゴ乗越2180mまで降りて再び森の中を100mほど登り返してやっと到着した。

ガタガタで狭いテン場でいい場所がないので張り場所に苦労する。ざっと見て20張りくらいしていて皆夕食を作っている。

相棒が重い2Lのビールを担いでくれているので我々も早速に乾杯とする。しかし彼はまだまだBe-Palキャンプが抜けなく縦走キャンプにしどろもどろである。

14日 晴/ガス

5:00 11度 行動開始

夜露でベタベタに濡れたフライシートを折り畳むがザックの重量が増していくようだ。

昨夜はやはりガスで期待していたダイヤモンドスカイは見えなかった。それどころか、朝からまたまたガスって小雨まで降りだしてきた。

5:56 2585m 間山山頂着

夜露で濡れたシラビソやハエマツが身体に当たり冷たいながらも朝一番の急登の間山を登って行く。

途中で素晴らしい隠れテントサイトを発見する。雪渓あり、平地ありで視界良好でスゴのテン場よりもはるかに良いところである。



北薬師岳の急な岩綾地帯



7:21 2900m 北薬師
岳山頂着

間山からは少々歩きやすくなるが直ぐさまガレガレの岩綾地帯の急登に変わり、ガスの切れ間から黒い異様な北薬師岳が一瞬ではあるが顔を覗かせた、これには圧倒されてしまった。

左側はすごい切れ込みの岩綾であるがガスのために下までは見えない。しかし要危険地帯である。

「ここで雨なら稜線風雨、荒天時薬師越え厳し！」と標識が上がっている。

それもそのはず、ここからの稜線歩きはとんでもない岩綾地帯のヤセ尾根で両側が切り立っているのである。

・山スキー>>>5月は東側の谷側に雪庇が出来ているから踏み抜きでもしたらただごとではない。気合いが入るところである。

8:05 2926m 14度 薬師岳山頂着

厳しかった登りである。まるで穂高縦走を思い出すようであった。一体どこから人が湧いてきているのかと思うくらいの人たちが小さな祠の周りにザックも持たずに座り込み朝食をとったり、シャッターを切ったりしている。ここから少し下にある薬師岳山荘から登ってきているのである。しかし残念なことにやはり視界は悪しで360度展望は望めない。

我々を見ると、誰からともなく「何時にどちらからですか?」、「スゴテン場を5時です」と言ったら驚いていた。

8:48 2701 m 薬

師岳山荘着

途中の薬師避難小屋は、屋根はなく、座って4人くらいはしのげるくらいであるが、なかなかの周りは頑丈に作られコンクリート固めでしっかりとしている。山頂付近で吹雪かれてたらこの小屋が頼りである。

ガスも下るにつれ多少晴れてきて、立派な薬師岳山荘が現れた。

9:46 2294 m 太郎兵衛平テン場着

山頂からは途中の薬師峠ののどかな所以外、高度約650 m下りっぱなしで、沢のゴロゴロとした急降下には膝が笑ってしまうほどであった。

・山スキー>>>薬師岳山荘からここまでも雪が付けば分かりにくいところである。

10:20 2372 m 太郎山山頂着

テント場から整備されたハイマツ帯の木道をほどよく歩いて行くと、太郎平小屋に着く。ここから薬師沢に下る分かれ道がある。ここから雲の平に降りる登山道でもある。

しかし、我々はここも素通りして太郎山に向かうが、どこが山頂なのか今ひとつわからないまま、高原のような山頂をガスにまみれて疲れながら先を急ぐ。ここらあたりが視界良好なら身も心も晴れ晴れとして最高のフィールド散策道なのだが残念である、高山植物もハイマ



薬師岳山荘

薬師岳山荘

ツ、ニッコウキスゲ、チングルマ、コバイケソウ、ミヤマタンポポ、チシマギキョウ、などがガスの中で浮遊している。

・山スキー>>>この高原のようはところはしっかりとコンパス確認である。

11:47 2570 m 神岡新道分岐到着

11:54 2661 m 北ノ俣岳山頂着

太郎山からの登り返しの高低差300 mは非常にまいるが、ハクサン

イチゲの群落に出くわし疲れも癒される。ここからは、ガスさえ晴れていれば眼前に黒部五郎岳の猛々しい勇姿が飛び込んでくるのだろうが残念である。

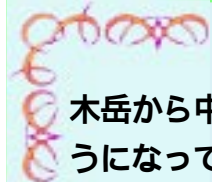
ここで出会った人と会話をしたが、五郎の小屋からここまで6時間かかったと言っていた。先はまだまだである。

・山スキー>>>太郎山から北ノ俣岳のシール登山は非常に疲れるだろう。

12:29 2622 m 赤木岳山頂

ここから中俣乗越あたりは何とかガスも晴れて、熊笹、ハイマツの緑が目を楽しませてくれる。

なんと、中俣乗越でアドスポーツのスタッフ4人パーティーと出会う、こんな所で奇遇である。彼らも黒部五郎のテン場に向かっている。



・山スキー>>>赤木岳から中俣乗越過ぎは高原のようになっていて分かりにくいところであろう、要コンパスである。

14:36 2780 m 黒部五郎岳の肩

中俣乗越 2578 m を過ぎてここまでの200mの急登で非常に疲れてしまった、これもやはり視界が悪いせいであろう。50mほど上の山頂はガスって見えないので『黒部五郎よ、何故にその勇姿を見せてくれないのか』と、言いつつ五郎カールの方へ足を運ぶ。すると、その思いが通じたのかだんだんに姿を現し、ついにはその全容が・・・やはり、素晴らしい光景である。

山肌は巨大なルンゼ状になり小さなニードルをいくつも従えて白い雪渓をマントのようにひるがえし、そのカールの下には巨岩をボールのように転がし、澄みきった清流にコバイケソウの白い花がそよ風に揺られ、その勇姿をたたえあって歌っているかのようである。

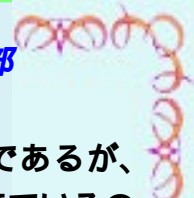
・山スキー>>>カール直下は巨大はハングになっているだろうから一つ目のピークまで移動する。



黒部五郎岳の大カール



黒部五郎山荘



16:20 2340 m 黒部五郎テント場到着

どこの小屋もそうであるが、みんな一体どこから来ているのだろうというくらいに人で溢れかえっている。

一畳に3人は余儀なくされるだろう。肝心のテント場も平地の場所は一杯で良いところが少ない。

この日の夜も星は拝めなかったが、天気は良くなる傾向である。

15日 晴

5:00 行動準備完了

ガスもほとんど無く上部に少しかかっているだけである。

早速に黒部乗越方面 2661 m への急登に汗が流れ落ちる。

登り初めて30分、後を振り向けば昨日に縦走してきた黒部五郎岳、北ノ俣岳、薬師岳は遙か遠くに見渡せる、とんでもなく長い距離である。

6:00 三俣蓮華分岐地点

山頂方面と山小屋方面への境である。ものすごい人がそれぞれ朝食タイムをしている。

我々は山小屋方面に足を運ぶ。この

トラバース道はチングルマの群生帯で非常に美しいところである。

・山スキー>>>スキーでは直接三俣蓮華岳へシール&クロー登行だ。

6:55 2555 m 三俣蓮華テント場到着

今までにない最高のロケーションのテント場である。広々としており雪渓が近くにあり清水が流れ落ちている。また眼前に鷲羽岳、水晶岳、そして東方面に槍ヶ岳がガスの中から顔を出している。

天気も上々なので、今日はここにベースキャンプを張り、サブザックで鷲羽岳2924 m、水晶岳2977 m、雲ノ平、黒部源流、と行動して再び戻ってくる計画である。



素晴らしいロケーションにベースキャンプ

素晴らしいロケーションにベースキャンプ
えたかのようなスピードで登っていく。『今日はピクニックだ~。』
我々に追い抜かれる登山者も開いた口が塞がらないようだ。

9:00 2924 m 鷲羽岳山頂着

8:15 行動準備完了

テント設営し、腹ごしらえも済まし、眼前にそびえる鷲羽岳に急登である。5kgほどのサブザックなので今までの行動とは打って変わったの軽装備なのでまるで羽が生



天気も上々で気分も晴々である。今日はビデオを回しまくりである。

立山方面は見えないが、薬師、五郎、三俣

そして最終地点に小さく見える槍ヶ岳のチンネの連なる北鎌尾根もはっきりと見渡せる、しかしその距離たるものは途方もなく果てしなく長い、明日はあんな遠くの槍ヶ岳まで行けるのだろうかこのビッグスケールの山々に飲まれてしまいそうだ。

9:37 2841 m ワリモ北分岐地点

高山植物も少し変わってきたようである。イワギキョウ、イワツメグサ、クロユリなどがそよ風に揺られて囁きあっている。

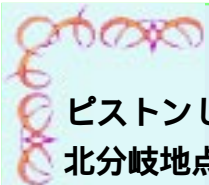
9:58 2885 m 水晶小屋到着

とんでもない所に山小屋が建っているものである。

10:23 2977 m 水晶岳山頂着

残念なことに山頂に着くなりガスがはびこってきて展望は望めない。北東方面に野口五郎岳の裏銀座コースや西側眼下に雲の平の高原に広がっているというのに・・・。

11:09 ワリモ北分岐地点



水晶岳を
ピストンし再びワリモ
北分岐地点。

十分に時間もあるので雲ノ
平方面へと足をのばす。岩
苔乗越から祖父岳へ登り返
すコースをとる。

11:45 2825m 祖父岳山
頂着

ガスも晴れて、眼下に雲
ノ平キャンプ場、そして祖
父庭園、スイス庭園、ギリ
シャ庭園、遠くに雲ノ平山
荘が2800m級の山々の懐
に抱かれているようである。

13:00 2570m 雲ノ平
山荘到着

スイス庭園は花と自然の庭石に囲まれ、水晶岳をマッターホルンに
称えてアルプスをかもしだしているのだろうか、ギリシャ庭園は紙吹
雪をまき散らしたかのようなチングルマの大群生である。その美しい
箱庭の中心に一本の木道が雲ノ平山荘へと続いているのである。

山荘の庭のテーブルでしばらく頭をからっぽにしてくつろぐ、時間
がゆっくりと流れているようだ。

15:50 三俣蓮華テン場着



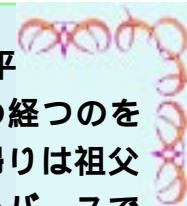
ハイマツと雷鳥



雲ノ平



黒部源流



雲ノ平
で時間の経つのを
忘れ、帰りは祖父
岳をトラバースで
日本庭園めぐりである。
やはり日本庭園らしく
緑豊かなハイマツの群
生帯で、小さな葉っぱ
に赤い実をつけたナナ
カマドがほどよく目
立っている。これぞ大
自然が作り出す盆栽で
ある。

黒部源流では、巨岩
にぶつかった清水が水
しぶきを上げ真夏の太
陽に照らされキラキラ
と輝いている。透き
通った冷たい清水は喉
にうるおいを与えてく

れる。

今日は素晴らしくゆっくりして自然と一体化した、そんな気分にな
せてくれた一日であった。

16日 晴/雨

5:49 2841m 三俣蓮華岳山頂着

定刻の5時にテン場をスタートして、長野、岐阜、富山の県境であ
る三俣蓮華岳山頂に到着。しかし再び濃いガスに包まれだす、と、そ

の時眼前に『ブロッケン現象』が現れた。早朝からいいご褒美である。

6:16 2854 m 丸山山頂着

ハイマツ帯の濃いガスの中を彷徨い歩いているようだ。



ドーム状の山頂の双六岳

6:59 2860 m 双六岳山頂着

ゴロ岩の急坂を登り終えたと山頂である。

しかしこの山頂は巨大なドーム状で北アルプスのあのゴツゴツしさが無い。

太陽が昇るにつれてしだいにガスも取れだし穂高方面の北鎌尾根

の荒々しいニードルが見えだした。まるでノコギリの歯のようである。

7:55 2545 m 双六小屋到着

ドームの端からはこれまた急坂の下りで真下に真っ赤の屋根の立派な小屋が見え出す。

ここは、笠ヶ岳、新穂高、槍ヶ岳への分岐地点でもあるので沢山の登山者でにぎわっている。

・山スキー>>> 三俣蓮華山頂からは丸山と双六岳東をトラバース気味で滑り込んでくると小屋である。

8:30 2755 m 樫沢岳山頂着

ここから見渡す双六岳や三俣蓮華岳、そしてこの樫沢岳あたりは、5月には自然が作りだした巨大ゲレンデと化すことだろう、双六小屋にベースキャンプを張り双六谷や樫沢に滑降するのも面白いだろう。

10:47 2734 m 千丈沢乗越到着

樫沢岳から硫黄乗越を越え左俣岳2674 mに登り返す、再び下りそしてこの西鎌尾根のトラバースはとんでもなく狭く危ない所でおまけにガスときているから最悪である。

しかしこんなところをどうやってスキーを担いでくるのだろうか?、当然こんな険しい岩稜地帯は雪も強風で吹き飛ばされてアイゼン、ピッケルの世界になるに違いない。

・山スキー>>> 非常に慎重を極める行動が必要だ、天気しだいで双六から下山だ。



大混雑の槍ヶ岳への登り

11:40 3055 m 槍ヶ岳小屋到着

やっとのことで到着である。この登りはものすごく疲れた、ぼちぼちと疲れもピークに達してきているのだろう、足のほうも指の肉刺が裂けて血まみれだ、左膝もぎこちない。両肩はザックの重みで腫れてきている。

相棒も同じく身体のおちおちがガタつき、もう十分に堪能できましたと言って今から下山し

たいと言っている。

20kg オーバーのザックを背負って、室堂から槍ヶ岳まで一体何kmの距離なんだろうか？、また小さなピークも入れると一体幾つの山を越えてきたのだろうか？、毎日10時間前後に及ぶ距離をほとんど行動食のみで動いている。それもたった3泊でここまで来ているのだから・・・。

時間もあるのでザックをデポして槍の山頂に登ることにする。



槍ヶ岳山頂の祠

12:00 3180m 槍ヶ岳山頂着

ものすごい人が登っているので一列縦隊で順番待ちでの登り降りである。ほとんどの人がぎこちなく、恐がって登っているので混むのもしかたがない。よくあれで滑落しないものだとは心配になる。

10 畳ほどの小さな山頂には小さな祠があり人がひしめき合っている。槍が可哀

想になってきて早急に降りることにする。しかし、何分混雑しているので往復で1時間もかかってしまった。

・山スキー>>>ここまで来たらゴールしたのも同じで次の日にゆっくりと新穂高までこの飛騨沢を滑り込んで行けばいいだけなんだが・・・果たしてここまで来れるか疑問である。それだけに山スキーでの Auto Route 達成には困難極まるものがある。

時間が中途半端なので戦意消失気味の彼には酷だが南岳まで行くこ



最悪の天気になった南岳付近

雨である。

やはり、今までの縦走路とは違い、この3000m級の稜線の穂高連峰には植物を生えさす余裕もなく黒く不気味な岩綾地帯で威圧感を漂わせている。

15:13 3032m 10度 南岳山頂着

最悪の天候になりすぐその眼下の山小屋さえ見えない。視界10mの気温10度の冷雨である。

15:30 南岳キャンプ場到着

五年ぶりにこの小屋に来るが、やはりその時もガスって槍を目指して雲中彷徨う道中だったのを思い出す。

小雨をねらって早々とテント設営を済ます。彼も4日目なので山岳テントの設営にだいぶ慣れてきたようだ。

時間も早いので小屋に入り、冷えたビールで今日の疲れをいやす。この小屋は槍や奥穂のビッグスケールと違い、こぢんまりとして騒々しさがなかったので落ち着く。

時間も経つにつれて濡れ鼠になった登山者が続々とやって来る、我々も場所を変え一畳半のテント内で食事の準備にとりかかる。

夜中に起きると、昨日の天気はどこへ行ってしまったのか、大きな

とに
する。

14:15 3084m 中岳山頂着

槍ヶ岳をあとにして、大喰岳3101m付近からついに空が泣き出してくる、視界も悪く冷たい

お月様が煌々と輝いているではないか！。

17日 晴

5:04 7度 ご来光

入山してからの最高の天気である。上空は雲一つなく真っ青である。

4時半頃に起き出し、キレットが見えるピークで御来光を待つこと30分、雲海の中から常念岳の肩にかかるようにしての神々しいまでの御来光のお出ましである。入山して初めてである。

南岳の山頂、北穂高の山頂、から一斉にフラッシュが光っている。

ものすごい素晴らしい景色である。360度の雲海で高山にいる者のみが見ることの出来る景色である。北方面に南岳、槍ヶ岳、そして縦走してきた鷲羽岳、水晶岳、北薬師岳、薬師岳、黒部五郎岳、三俣蓮華岳、双六岳、西方面には3年前の夏に登った弓折岳、笠ヶ岳、東方面は昨年5月に



御 来 光



北 穂 高 岳 と 大 キ レ ッ ト

登った常念岳、蝶ヶ岳、そして南側は5年前に縦走した穂高連峰と、大パノラマである。

7:00 下山準備完了

パッキングすべて済まし、南岳新道をどんどんと高度を下げていく。

しかし、この下りはものすごい急降下で疲れた足に非常にこたえる。

9:00 22度 槍平小屋到着 大休止

朝は7度であったが22度まで上がり汗がしたたり落ちる。

山での最後のラーメンを作りしばし休憩をとる。

ブナが新緑し木漏れ日があふれゆったりとしているが、道はゴツゴツの岩だらけである。

11:16 1615m 白出出合

ここは奥穂高からの分岐点でもある。ここから長い長い林道歩きとなる、登山靴で最も疲れるところである。

13:10 新穂高到着

山での全行程がやっとファイナルになる。

山麓の新穂高キャンプ場でテントを張り、温泉で5日間の山のアカを落とし十分に鋭気を養う。

『今日は飲むぞ〜』

食堂で、飲んでいると、三俣蓮華テ場にいた55才の人と再び出会う。彼も新穂高にテントを張っている所以場所を変える、そこで24才のMTBで日本一周をしている若者も入り、夜は楽しい晩餐会となる。

18日 晴

7時のバスで高山に出てJRを乗り継ぎ帰郷したのは14時30分。姫路はうだるような暑さである。

今回の山行を振り返って・・・

- ・なんといってもやはり天候に恵まれたことである。
- ・三俣蓮華山頂でブロッケン現象に出会ったのは感動した。
- ・ダイヤモンドスターが見れなかったのが残念である。
- ・今までで初めて交通機関を利用したがやはり行き帰りは非常にラクで、ロング縦走はこれに限るだろう。
- ・木倉氏もこの山行で色々勉強になり、人間的にも大きくなるだろう。
- ・今夏は後立山、白山とトレーニングして、体重も58kgから60kgに上げ、体脂肪も9.5%から13.6%まで上げて極力食わず飲まずで自分の限界地点を極



雲上の笠ヶ岳



白出滝とジャンダルム

めようと計画して実行した結果・・・体重が55kg、体脂肪が8.6%までに落ち込んでいました。でも極力元気で5感が研ぎ澄まされたようです。

山スキーでの難関点

- ・一の越山荘からの龍王岳、鬼岳をトラバースする高度。
- ・獅子岳へ登り返しからザラ峠へのとんでもない急坂の下り。
- ・越中沢岳からの急坂の下り。

- ・スゴの頭からの急坂の下り。
- ・間山から北薬師岳へのルート。
- ・北薬師岳から薬師岳へのやせ尾根の岩綾地帯。
- ・薬師岳山荘から太郎兵衛平までも雪が付けば分かりにくいところである。
- ・太郎山付近の方角注意。
- ・黒部五郎岳からのハングの雪庇からの滑り出し。
- ・西鎌尾根から槍ヶ岳までのやせ尾根の岩綾地帯。

この行動を実戦に移すにあたっては、体力はもちろんのこと、5感を研ぎ澄まし、知力、行動力、判断力そして動物的なカンを極めねばならない、つまり「総合的運動能力と総合的運動体力」が必要とされる、そして色んなところでシュミレートしての実戦トレーニングが必要である。そしてなんといっても天候に恵まれなければどうにもならない。自然界に相反した行動は非常に大きなリスクを伴う。